

# 登山・登攀の記録

## 北海道 日高山脈北部

日時:1980年11月14日～11月24日

メンバー:CL 塔下守、伊串達夫、

概要:都合により2、3年目2名の山行となる。冬合宿の準備に縛られない。学園祭・6公立戦の長期休暇を利用。他の登山者が皆無の山。周遊券を利用した安くて遠い山旅。藪は隠れてラッセルもほどほど。ヒグマも冬眠しとるやろ。以上により日高北部の縦走に決定。ただ、前年同時期にカムエク山の北東カールで福岡大パーティがヒグマに食い殺されていたのを知ったのは京都に帰ってからのことであった。

### 記録

11月14日 晴

京都駅より「北国」にて離洛

部員等に送られて駅を発つ。荷物はザックに入りきらず。

11月15日

終日汽車のヒト。景色を見るか、弁当を食うか。

11月16日 晴のち曇のち快晴

＝「帯広」＝「中札内」:(14:10)＝札内川－スクネマンベツ沢出合(15:50)

半日汽車のヒト。帯広に余分の荷物を置き、中札内へ。中札内のタクシーは出ていたのでレンタカーを手配する。12,000円也。途中、営林署中札内担当区へ入山届けを出す。車はほぼ林道終点まで入った。残りの林道を少し歩いた所で幕営。雪はほとんどない。

11月17日 曇

T.S(7:40)－八ノ沢出合(11:35/12:15)－八ノ沢820m付近(14:00)

林道は七ノ沢の手前で終わり。八ノ沢出合いまではほとんど左岸伝いに行く。徒渉三回。出合からは締り雪が続いていて快調に進む。水の出ている最後の所で幕営。北東カールへの直登はきつそうなので・900m付近から西の稜線へ突き上げる尾根をルートとする。

11月18日 曇のち雪

T.S(7:40)－尾根取付(8:10)－1600mカール底(12:10)

尾根に取付いて少ししてから風が出て雪が降り出す。締り雪で本日も捗る。1500mをすぎて瘠せ尾根となる。ガスの中、何とか 1610mのカール底に

辿り着く。風が舞いテント設営に手間取る。ブロックもすぐ壊れてしまった。

11月19日 快晴、風強し

T.S(7:40)－8:10)－カムイエクウチカウシ山－春別岳の西肩 1810m(14:15)



5時半起床。快晴。カムエク・ピラミッドから陽が降りてくる。稜線までクラスト急斜面の直登。2ピッチ掛かる。ザックを置いてカムエク山往復。西風強く快適なクラスト。頂上からは日高全山。そして真っ白な大雪(神々の座)、遠くかすんで羊蹄山。頂上直下にはテント一張のスペースあり。ザックまで引き返し後はひたすら北へと進む。が、風がないと雪が腐り、ゴジラ落しの連続。・1917の南面は半分氷壁となっていてそれを乗切るとゴジラの背の如き、ハイマツ・岩・雪のミックスした瘦尾根が続くバテバテで春別岳の西肩にたどり着き、雪を大きく削りとしてT.Sとする。

本日たどった稜線の奥にカムエクが大きく構えていた。夜風もなく信じられない静けさ。今、日高に入っているのは我等二人のみ・・・。

11月20日 ガスのち晴

T.S(8:50)－札内岳分岐(12:45)－B.C 設営地

# 登山・登攀の記録

夜に気温下がらず朝から腐り雪。昨日に続きゴジラの背。・1831 の手前からは雪底も出てくる。ナメワッカ岳分岐から稜線も広がるが相変わらずのゴジラ落し。・1751 の手前で天気、体力回復待ちの大休止。あと 1 ピッチで沢山の残置赤旗がある札内岳分岐着。札内岳方向へコブ 2 つ越えた所へ B.C 設営する。雪を削って 2 時間掛かる。

11 月 21 日 ガスのち快晴

B.C(10:35)-エサオマントッタベツ岳-・1807(12:00/12:35)-B.C(14:15)

起きたらガスっていたので待機。9 時頃晴れ出す。札内岳アタックは明日に回しエサオマン岳方面の偵察をする。エサオマン岳からトッタベツ岳への稜線はまあまあだが北東尾根は藪が出ていそうだ。きれいに埋まっているエサオマン谷に魅力を感じる。・1807 の無人氣象観測小屋へ見物アタックを掛け、後ほっこりしながら B.C へ戻る。ブロックを補強して B.C は要塞ようになった。

11 月 22 日 快晴

B.C(7:40)-札内岳(10:00/11:20)-B.C(13:35)

6:10 起床。北海道の夜明けは早い(日暮れも早い!)。いざ札内岳へ。瘦尾根は楽に通過できたが 9 時過ぎから雪が腐りだして捗らない。雪底とハイマツの間隙を縫って頂上着、大休止。戻りは予想以上の腐れ雪。沈む、ダンゴになる、滑るで最低コルでへたばる。日陰の凍てた斜面を選び写真を取りながらボチボチと B.C に戻りついた。明日エサオマン谷を下って下山に決定。喰えるだけ喰って飲んで寝る。

11 月 23 日 晴のち曇

B.C 撤収(8:40)-エサオマン谷-トッタベツ川合流点 815:50)

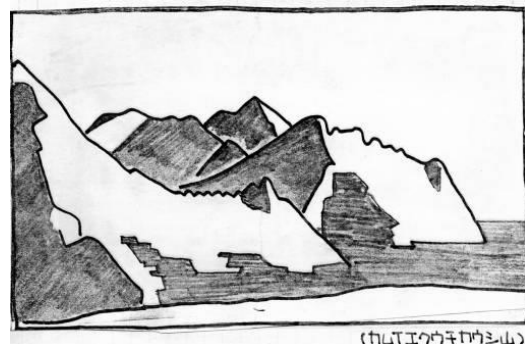
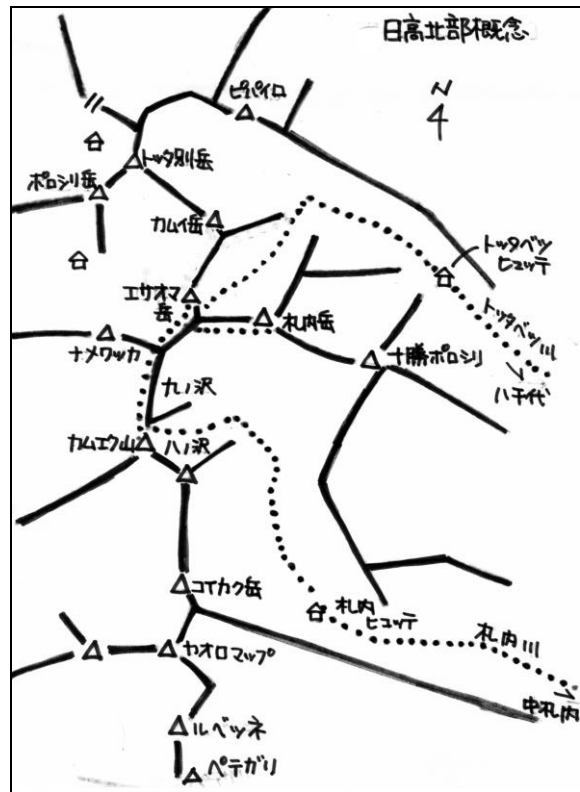
ザックは今になっても重い。B.C から樹林伝いにカールへと降りる。塔下、底近くでシリセード失敗、50m ほど滑るも無事。カール底見上げると側壁に囲まれた空が見える。・999 までは完全に埋まっていた。水が出てくると所々氷となりカッティングを強いられる。岸を伝い、石を飛び、徒渉せずガケノ沢出合へ。雪も無くなる。少し下流からゴルジュ帯へ入る。右岸に巻き道あるが左岸を少し辿り、相当し

よっぱい目に遭う。薄暗くなってきた頃、やっとゴルジュ帯終わり、前方に緑と白の真新しいコンクリート橋が現れた。林道じゃ。橋の下手を T.S. 適当に寝る。

11 月 24 日 曇のち晴

T.S(8:35)-トッタベツ川-八千代発電所(13:50) =「帯広」

夜中に異様に寒い目をする。林道に行く。ヒッチを期待するが車がない。トドマツ・エゾマツの造林地が出てくる。トッタベツ小屋は健在だった。トクサが出てくる。カラマツ造林地が出てくる。牧場が出てくる。そして八千代発電所でした。バスは 8 時台と 18 時台。ヒッチして帯広駅まで。畑の脇に伐根の山。西日に影絵となって日高が見えた。下山連絡をして街へ出た。(記/塔下)



(トクタベツ川下流の山)